

露地初夏どり作型に適する 業務用のハウレンソウ品種

冷凍食品や惣菜等に利用される業務用ハウレンソウは、西南暖地を中心に冬春期の生産が主体ですが、夏秋期のフレッシュ・カット需要への対応も求められています。岩手県など東北地方北部の気象条件下における露地初夏どりの作型では、抽だいや葉先枯れ症が発生しやすいため、適切な品種選定が肝要です。また、業務用では大面積での栽培が想定されますので、労働生産性に優れる品種であることも求められます。岩手県農業研究センター県北農業研究所では、32のハウレンソウ品種から、これらの条件に合う晩抽性で葉先枯れ症の発症が少なく、労働生産性に優れる品種を選定しましたので、成果の概要について紹介いたします。

☆ 技術の概要

1. 業務用として一般的な出荷基準である草丈 40cm まで抽だいない品種は、32 品種中「サイクロン、トリトン、プロキオン、レースクイーン7、スペードワン、サマンサ」でした。
2. 表に示したこれらの6品種中、「サイクロン」、「トリトン」を除く4品種は、葉先枯れ症の発症量が多く、業務用出荷には適さないことがわかりました。
3. 「サイクロン」は作業性は「トリトン」に比べやや低いものの、発芽率および生存率に優れ、葉色が濃く、収量性が高く、収穫作業時間当たりの収穫量が最も優れていました。
4. 以上の結果から業務用ハウレンソウの条件である晩抽性で葉先枯れが少なく、さらに葉色が濃く、収量性並びに労働生産性に優れる「サイクロン」が初夏どり作型品種として向いていると判断されました。

表 初夏どり作型用品種の収量性および作業性等

品 種	収 量 性					業務需要特性		作 業 性		
	栽培日数 (日)	草丈 (cm)	抽だいの株率 (%)	生存株率 (%)	葉先枯れ発症率 (%)	調製重 (g/株)	商品収量 (kg/a)	葉色 (SPAD)	10a収穫時間 (h/10a)	1株収穫時間 (秒/株)
サイクロン	61	43.0	0.0	75.0	10.0	90.1	426.4	53.3	134.4	7.91
トリトン	57	40.1	0.0	63.5	12.5	87.6	292.8	46.6	122.6	7.43
プロキオン	54	39.2	0.0	73.5	25.0	64.7	239.4	44.7	146.5	8.21
レースクイーン7	61	40.5	2.5	66.2	20.0	69.2	228.4	42.4	143.6	7.96
スペードワン	57	45.6	0.0	68.4	46.3	82.0	180.9	38.8	140.7	8.95
サマンサ	57	38.8	0.0	68.3	43.8	64.3	129.9	36.7	153.8	9.44

☆ 活用面での留意点

1. 業務用ハウレンソウの出荷規格・形態は、実需先によって求められる荷姿は異なりますが、草丈 40cm 程度の大株で、株元 3cm の葉柄径が 1cm 未満のもの、また、葉色はより濃いものが求められ、コンテナ出荷を前提にしています。
2. 表示した晩抽性の6品種中、「サイクロン」以外はベト病抵抗性をレース 1～7 まで有します。「サイクロン」は 1～5 まで有しますが、これ以上のレースの分化が進んでいる地域での利用には注意が必要です。
3. 詳しいことは、岩手県農業研究センター県北農業研究所園芸研究室 (TEL : 0195-47-1070) へお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田勝弘)